

事業群評価調査(平成29年度実施)

基本戦略名	9 快適で安全・安心な暮らしをつくる	事業群主管所属	土木部砂防課
施策名	(4) 災害に強く、命を守る県土強靱化の推進	課(室)長名	田中 比月
事業群名	⑤ 地震、大雨、台風、高潮などの自然災害に備えた施設整備など防災対策の推進①	事業群関係課(室)	道路維持課

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文) 近年、全国的に頻発する、地震・大雨・台風・高潮などの自然災害に備え、災害に強く、県民の安全・安心な暮らしと命を守る県土づくりに向けた施設整備やソフト対策を積極的に進め、事前防災・減災対策の充実を図ります。						(取組項目) i) 道路の防災対策 ii) 道路の無電柱化	
指 標		最終目標 (H32)	目標 (H28)	実績 (H28)	達成率	(進捗状況の分析) 「土砂災害警戒区域内での死者数」は快適で安全・安心な暮らしをつくるための各種の取り組みにおける⑤の代表指標であるが、施設整備やソフト対策を積極的に進めた結果、平成28年度も死者0を達成することができた。 大雨や地震などの自然災害を想定しつつ、引き続き積極的に整備を進めることで、最終目標の平成32年度までの土砂災害警戒区域内での死者数0を達成できるものとする。	
事業群	土砂災害警戒区域内での死者数	0人	0人	0人	100%		
その他関連指標							

2. 28年度取組実績 (H29新規・補正は参考記載)

[illegible]

取組項目 ii	道路の無電柱化(電線共同溝整備費)(公共)	—	509,237	68	—	県管理道路利用者	県管理の国道、県道の電線類地中化を行った。	活動指標	整備延長(km)	5.3	8.6	162%	大規模災害(地震、竜巻、台風等)発生時に、電柱等の倒壊による道路の寸断を防止するために、電線地中化を実施しているが、電柱等の抜柱を行うための、電線管理者や地元との調整に不測の時間を要したので、無電柱化出来ず、目標を達成できなかった。	○
			道路維持課	330,442	104			—	成果指標	無電柱化延長(km)	11.3	—		
	2	0				0%								
							2	—	—					
	心ふれあう道づくり事業	—	167,065	159	5,629	県管理道路利用者	道路の無電柱化事業に併せ、カラー舗装やデザイン照明など歩道空間のグレードアップをすることで地域住民の快適な空間創出を実施した。	活動指標	整備延長(km)	6.2	6.2	100%	道路の無電柱化に併せて整備を行い、今年度は4箇所ですべて快適な歩行空間を確保した。	
			道路維持課	128,000	120			4,844	成果指標	快適な歩行空間を確保できた箇所数	1.3	—		
	4	4				100%								
							5	—	—					

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 道路の防災対策		県管理の国・県道の道路法面等の危険箇所の対策事業を実施することで、災害に強く、安全・安心で快適な暮らしづくりに貢献している。引き続き、事業を続けることで、道路防災計画に位置付けているPDCAサイクルの実践を行い、点検や対策、災害履歴などの情報のデータベース更新を行っていく必要がある。 また、災害防除調査については、要対策箇所以外からの災害発生を未然に防止することを目的に、空中写真・地形図などの既存資料を活用して災害要因箇所を抽出し、危険箇所を選定して点検を実施する計画であったが、災害要因箇所が想定以上に多く抽出されたため、危険箇所の絞り込みが出来なかったため、今後は、安定度評価など、新たな評価手法も検討しながら、危険箇所の選定を行いたい。
ii) 道路の無電柱化		県管理の国・県道の電線を地下埋設することで、災害に強く、安全で快適な暮らしづくりに貢献しており、電線地中化の整備延長は目標以上の実績を上げているが、電線管理者や地元との調整に不測の時間を要しており、電柱等の抜柱が出来ずに無電柱化延長が進捗が図られていない。今後も、引き続き電線管理者及び地元との調整を実施し、電柱等の早期抜柱を図り、無電柱化事業を推進したい。

4. 29年度見直し内容及び30年度実施に向けた方向性

取組項目	事務事業名	29年度事業の実施にあたり見直した内容 (H29の新たな取組は「H29新規」等と記載、見直しがない場合は「—」と記載)	30年度事業の実施に向けた方向性		
			事業継続の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目 i	道路災害防除事業	—	—	小規模な危険箇所については、降雨などによる突発的な異常箇所が多く、予測が困難であるため、今後も柔軟な対応を行っていく。	現状維持
	道路災害防除調査費	空中写真・地形図などの既存資料を活用して災害危険箇所を抽出する計画であったが、災害要因箇所が想定以上に多く抽出され、危険箇所の絞り込みが出来なかったため、新たな手法として、安定度評価を追加し危険箇所の抽出を行う。	—	安定度評価のほかに、新たな評価手法も検討しながら、危険箇所の抽出を今後も継続して行っていく。	現状維持
取組項目 ii	心ふれあう道づくり事業	—	—	道路の無電柱化事業に併せ、カラー舗装やデザイン照明など歩道空間のグレードアップをすることで地域住民の快適な空間創出を実施する必要がある。	現状維持